

# 耽美な歌声に包まれる ロマンティックなクリスマスの夜を。

今年のミッドランドスクエアのクリスマスイベントのゲストは、堂珍嘉邦さん。  
ソロ活動で追求し続けている、自身の音楽のこと、  
クリスマスにまつわるエピソードについてお話を伺いました。



自分の音楽がちゃんと  
評価される場所に行きたい  
だから、ソロの道を選んだ。

美しいヴォーカルデュオで一世風靡した  
CHEMISTRYの活動を停止し、ソロ  
デビューして約1年。堂珍さんは、ア  
ーティスト的な雰囲気やインタビューの  
場に現れました。彼はいま、事務所もレ  
ベルも移籍し、まったく新しいプロジェ  
クトで新しい音楽の道を歩いています。  
「僕がソロになったのは、自分主体で音楽

がやりたかったから。これからは音楽をや  
っていく上で、ソロにならなきゃ、きつと後  
悔する。いま、34歳。人生でいまいちばん  
頑張らなくてはけないタイミングだと、僕  
は思っています。安定よりチャレンジする  
方を取りました。いま置かれている立場は  
インディーズみたいなものですが、ビッグ  
プロジェクトであったCHEMISTRY  
ではできなかった、曲作りやライブ、今日  
のような取材もひとつひとつ意味や必然性  
を感じてやっています」。

ただただ綺麗なものを  
目指してやっているだけ。  
それが「耽美エントRock」

何度もチャートのトップを占めた大ヒット  
メーカーCHEMISTRYではできな  
かった、堂珍さんの自身の音楽とは一体ど  
んなものなのでしょう。彼は自らの音楽  
性を「耽美エントRock」と命名し、美  
しい音を日々生み出しています。耽美とは、  
綺麗な世界観を目指し、追求すること。ま  
さに堂珍さんの音楽を表現するのにピッタ  
リなコピーです。

「自分の中にある、悔しい！とか、負けな  
い！とかの強い気持ちをCHEMISTRY  
でやっていたラブソングでは、絶対出せな  
かった。それを相方に共感させるわけにも  
いかないし。元々違うキャラの二人が一緒  
にやっていたから、ひとつの音楽の中  
で共存することは難しかったですね。そう  
いった反骨精神を表現しやすいから、ソロ  
ではロックをやりたいかったです。一般に  
ロックの解釈って狭いので、誤解される  
といけないが、僕がお化粧する訳でも、が

なり声をあげるのでもないですからね(笑)。  
僕がやっているロックは、自然体のまま  
ナチュラルに、綺麗な音とか綺麗な声、響  
きで表現する音楽です。僕はアンビエ  
ントなサウンドのロックが好きで、アンビ  
エントとはギターの音色が空間に響いてい  
るようなドリーミーな音楽のこと。メジャー  
バンドだとレディオヘッド、ナイニンチ  
ネイルズにもアンビエントな曲があります。  
アンビエントな音に包まれた空間で綺麗な  
歌声で歌う。ある時、スタッフが僕の音は  
「耽美」という表現が似合うって言うてく  
れたんです。それである日、車の中で耽美  
という言葉が生まれたんです」。

アーティスト  
堂珍嘉邦さん Yoshikuni Dohchin

1978年11月17日、広島県生まれ。2001年、CHEMISTRYとしてデビュー。ヴォー  
カルデュオの代名詞となり、CD総売上1800万枚を誇るアーティストに、ソロ活動とし  
ては、2009年映画「真夏のオリオン」で俳優としてデビューし、2011年には音楽劇  
「醒めながら見る夢」で主演を務めた。2012年11月14日、Double A-Side Single  
「Shout / hummingbird」で、ソロデビュー。2013年2月27日、デビューアルバム  
「OUT THE BOX」をリリースし、翌月から全国ツアーを敢行。2014年2月には、  
2ndアルバムをリリース予定。また、夏には、辻仁成監督の新作「醒めながら見る夢」  
で映画初主演し、主題歌も担当するなど、精力的に活動している。



3rdシングル「Euphoria」

探していた幸福にやっと出会えた喜びを、  
疾走感溢れるサウンドに乗せたロック・  
チューン。

ソロデビュー・ツアーのファイナル公演  
「堂珍嘉邦 TOUR 2013 "OUT THE  
BOX"」を収録した、LIVE DVDより。  
2013年4月19日にZepp Diver City  
Tokyoで繰り広げられた、耽美エ  
ントRockの世界に酔いしれて。





従来のファンも新しい人にも  
僕の音楽を聴いて欲しい。

「今年はライブをできる限りたくさんやり  
ました。渋谷公会堂のお披露目ライブの後  
は、ソロデビュー・ツアー「OUT THE  
BOX」で全国を周り、お代わりツアー  
として「in late summer」をやりま  
した。CHEMISTRYのときは全く  
違う音楽をやっていて、すごく騒がしい曲  
とかオースな曲とかあるんですよ。ライブ  
会場でファンの方は最初は戸惑ったみたい  
で、ポカロンと聴いているだけだったのが、  
だんだんノッて来て、僕の音楽が伝わった  
のかなと思った。半分は楽しみながらも、  
半分は不安で、お客さんの反応を見ながら

突っ走った感じですが。ソロでは新しいこと  
をやっている訳ですから、すべての人に聴  
いてもらいたい。自分のファンだけでなく、  
新しい人たちにも聴いてもらいたいですね」  
来年2014年2月にはセカンドアルバム  
が発売予定。そのレコーディングでロンドン  
に渡った堂珍さん。その地で新しい音楽の  
クリエイションを楽しんだようです。  
「UKロックがすごく好き。アメリカの音  
楽よりも、寂しさや濃厚な部分を感じる  
UKのほうが肌に合うんですよ。でもね、  
実はロンドンへは行ったことがなくて。今  
回初めてロンドンに行って、ロンドンを肌  
で感じて曲を作ってきました。自分の感覚  
にある、このメロディきれいな、この音  
かっこいいなというのと、ロンドンフレ  
バーな感覚がうまく合ったらいいなと思っ  
て。マイナー系な寂しくて美しい曲を多め  
に作りました」。

映画主演を果たし  
役者としても新境地を開く。

2014年夏に公開予定の辻仁成監督の  
「醒めながら見る夢」では、映画初主演を  
果たし、演じることの楽しさを知った堂珍  
さん。同作は2011年の舞台を映画化し  
たもので、舞台に続き主演を務めました。  
「僕が演じた優児は、現実と非現実の世界  
のなかで、存在しないのが見えてしまうん  
です。そのなかで愛することの難しさや素  
晴らしさを受け止めて、ひたむきに進んで  
いくという難しい役どころ。寡黙な人間な  
らだけど、爆発したり、振り幅が激しい役  
なんです。それは前に舞台でやった役と  
同じなので、自然とできました。でも、今回、

演技をやりすぎない、引く芝居の難しさを  
実感しましたね。無表情で涙を一滴こぼす  
とか、引き算のお芝居が難しかったですね。  
あと、優児の狂気の世界を演じるには、自  
分を追い込まないとできない。役に入るに  
は一度壊れないといけないんですよ。お芝  
居することで好きなことは、一度壊れて  
スッキリしてから役に入って演じるところ。  
違う人になれるのは、羽根が生えるようで  
楽しいですね。プロが集まって、いいも  
のを作ろうとしているところも好きです。

堂珍さんの歌声で幕を開ける  
ミッドランドのクリスマス。

デビュー後は仕事ばかりでクリスマス  
祝う時間がなかったと言う堂珍さんに、子  
供の頃のクリスマスの思い出を尋ねると  
「6歳のときにサンタクロースはいないって  
知ってしまったんですよ。枕元にプレゼント  
を置いて部屋を出て行く親の姿を見てし  
まって、ああ、サンタクロースは両親なん  
だ。って。それ以降は、新聞のチラシを見  
て、オモチャを親にリクエストするような  
子供でした(笑)。他には、地元の男友達と  
みんなでパーティーやって、ドンチャン騒ぎ  
したことくらい。三角帽子被って、裸になっ  
て雪にダイブしたりとか、あ、ボクはやって

ないですけどね(笑)。でも、好きなクリ  
スマソングがあって、ジョン・レノンの  
Happy Xmas (War is Over)で、  
クリスマスシーズンによく歌います」。  
今年のミッドランドスクエアのクリスマス・  
キャンペーンは、11月8日(金)、堂珍嘉邦  
さんのクリスマスツリー点灯式でスタート  
します。堂珍さんがミッドランドにやって  
来るのは、2008年にスカイプロムナード  
で極寒のなか、パレンティン・ライブを行  
なって以来。当時の印象を伺うと「すごく  
寒かったんで、ダウンジャケットを着込ん  
で歌った記憶があります。真っ白い息を吐  
きながら歌ったような(笑)。今年のクリ  
スマイベントでは、クリスマスに聴きたい、  
温かい雰囲気のある曲を歌いたいと思います」。



Fashion Talk

この日は衣装ではなく、自前で登場した堂珍さん。トップスは、Sacaiのシルク  
とニットのコンビ、サンローランのショートパンツと、個性的なファッションもセンス  
よく着こなしてしまっています。「ハイブランドのものって、素材やラインが綺麗で、  
やっぱりいいなって思います。アクセントで1つだけハイブランドを取り入れて、  
あとはそうでないものを合わせたりしますね。ミッドランドに入っているブランド  
だと、ディオール オムが好きです」。

堂珍嘉邦さんが選ぶ、ミッドランド  
スクエアのクリスマスプレゼント

からすみが好きで、からすみのパスタを自身で作ったりもする  
堂珍さんがミッドランドスクエアで選んだのは、紫野和久傳の  
からすみ餅。「以前、人からいただいて以来、大好きになりま  
した。焼き色が付くくらいに少し炙って食べると美味しいですよ」。

柔らかく仕上げたからすみを、きめ細かい  
自家製のし餅でつつんだ、からすみ餅。



紫野和久傳 からすみ餅 3枚入り ¥4,725  
◆期間限定：11月上旬～2月中旬

[ 紫野和久傳 B1F TEL.052-527-8811 ]

ミッドランドクリスマス2013プレゼントキャンペーン賞品に決定!  
詳しくはP.55をご覧ください。

イルミネーション点灯式&プレミアムLIVE

◆日時/11月8日(金) 18:30~ ◆場所/商業棟B1Fアトリウム

今年のミッドランドクリスマスは、堂珍さんのクリスマスツリー点灯式  
とスペシャルライブで幕を開けます。

Interview at  
INTERSECT BY LEXUS-TOKYO

今回のインタビュー会場は、2013年8月30日に南青山・みゆき通り沿いに誕生した話題の  
スポット「INTERSECT BY LEXUS-TOKYO」。“都市とつながり、人と人、人とクルマが交わる”  
をテーマとし、デザインやアート、ファッション、カルチャーなどを通じて、LEXUSが考えるライフ  
スタイルを様々な形で体験できるスペースです。1Fのカフェの奥にあるGARAGEには、LEXUS  
のコンセプトカーを展示。2Fのライブラリーラウンジでは、ランチもいただけます。片山正通氏  
(Wonderwall Inc.代表)による落ち着いたインテリア空間のなか、極上の時間を過ごせます。



[ INTERSECT BY LEXUS-TOKYO 東京都港区南青山4-21-26 TEL.03-6447-1540 ]